



教師の成長メカニズム： 認知と技術の統合プロセス

養成・採用・研修をつなぐ「熟達化」へのロードマップ

Based on: 岐阜女子大学大学院 生田孝至教授『第15講 教師の成長』

教師の成長は「養成・採用・研修」を包み込む長期的プロセスである

教師のライフサイクル (Teacher Life Cycle)



養成段階（大学）：カリキュラム・ポリシーと専門知の構築

Process Description（過程記述）

State Description（状態記述）



課題：科学知を「教えるための専門知」としてどう体系化するか？

「教科を教えるための専門知」とは何か？

一般的な教科知識
Academic Subject Knowledge



理学部・文学部の学問的
研究（事実としての知識）

教育的専門知
Pedagogical Content Knowledge



- ・学習者がどう捉えるか
- ・どこでつまづくか
- ・どう乗り越えさせるか

Case Study: Gifu University (昭和54-56)

算数全単元の調査：通過率の低い単元（学習困難点）を特定し、具体的な指導ポイントを体系化。

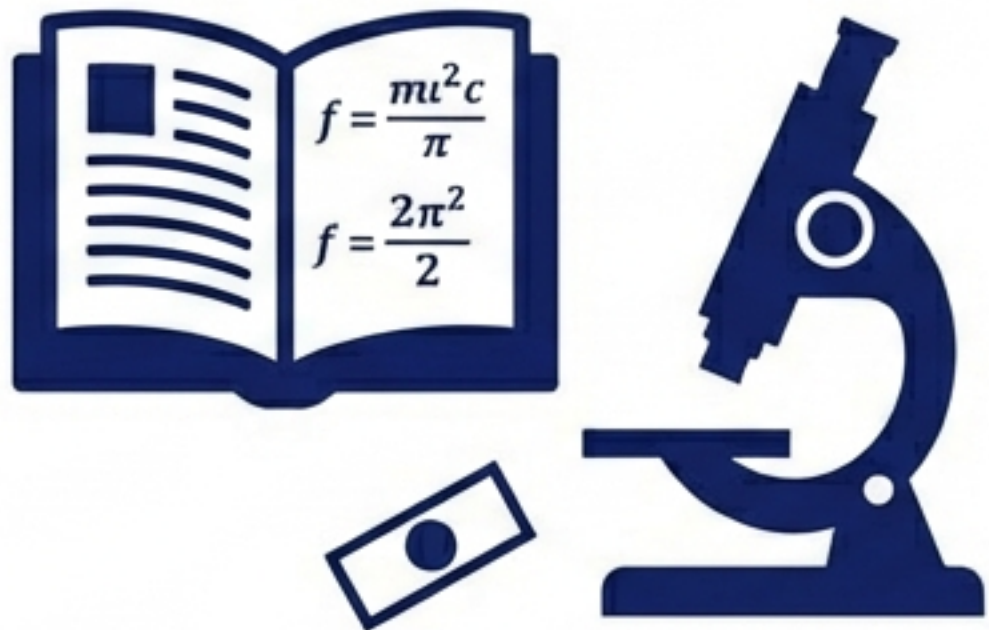
採用段階：資質という「状態」をどう評価するか



課題：テストは知識を測れるが、「暗黙知」や「対人関係」の評価は複雑である。

大学の「卒業時状態」と現場の「採用時状態」の接続が求められる。

研修段階：実践の現場で求められる「医師のような判断力」

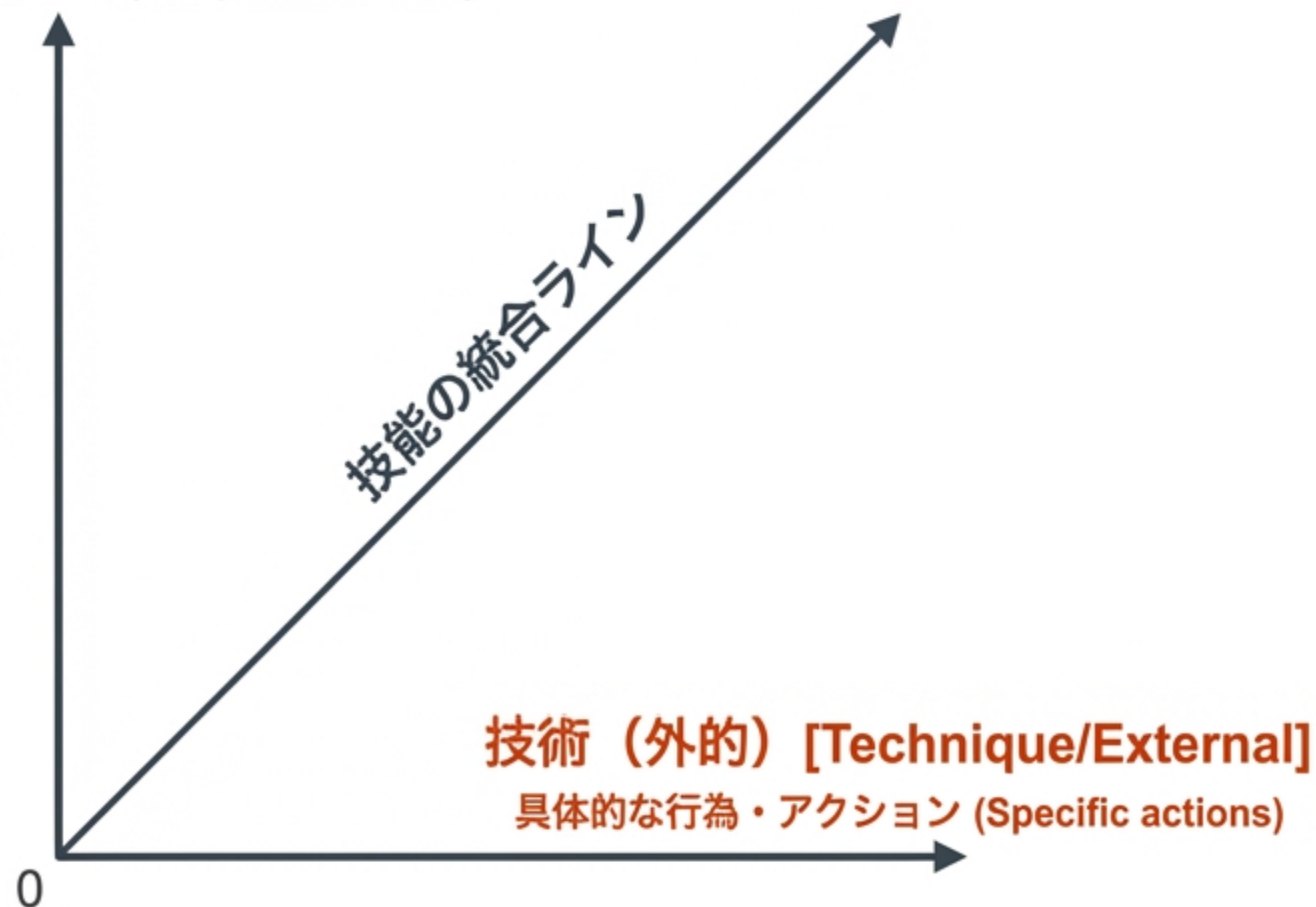
科学知 (Scientific Knowledge)	臨床知 (Clinical Judgment)
 客観的な事実・理論 (Explicit Knowledge)	 目の前の症状に対する即時の判断 (Tacit Knowledge / 暗黙知)   教師も同様に、教室という「混沌とした状態」の中で、直感と経験に基づく判断（技術としての知）を駆使する。

授業技法の構造：認知（みえ）と技術の統合

認知（内的）[Cognition/Internal]

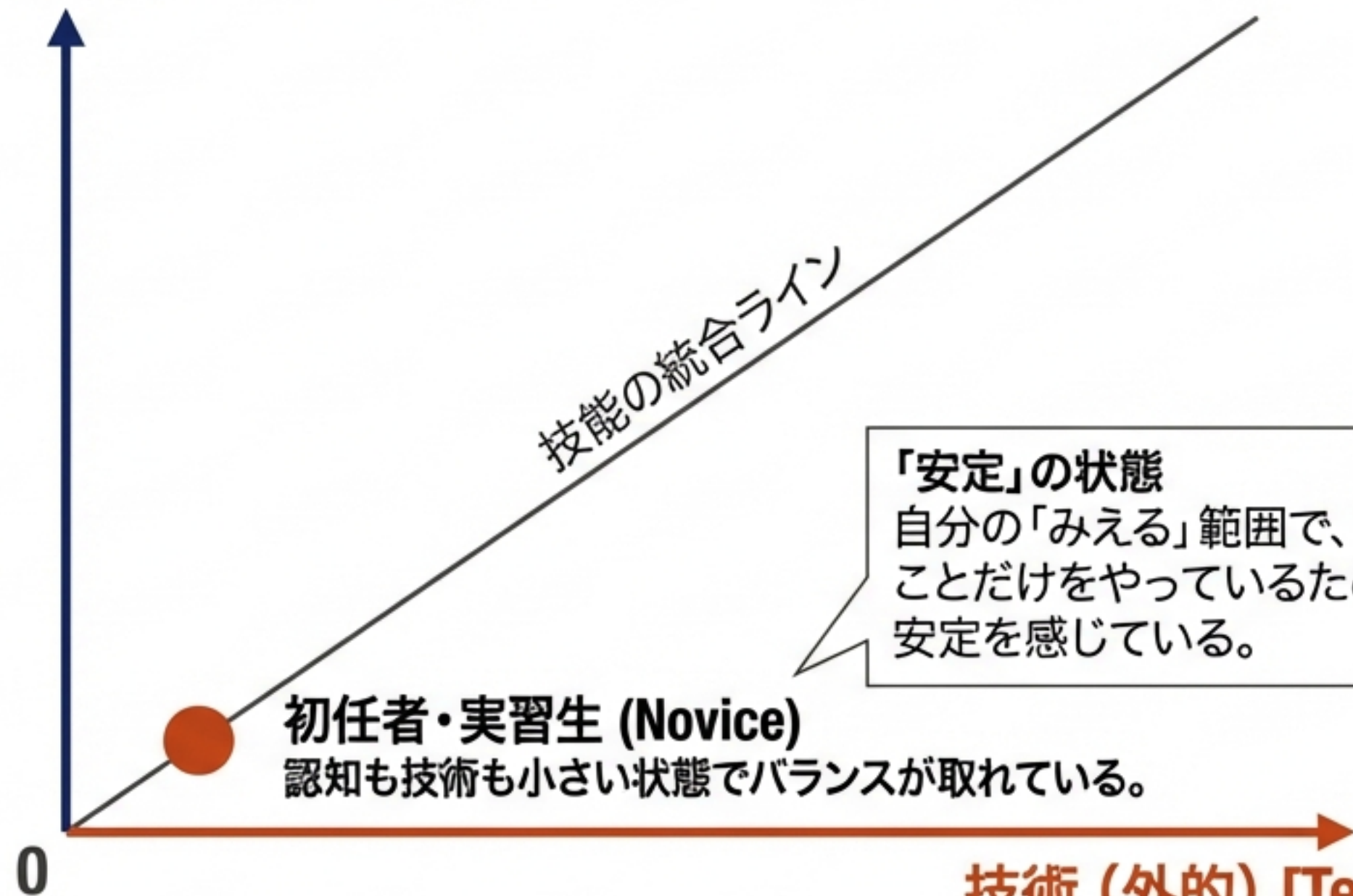
教室の事実を「みる」力 (The power to 'see')

授業スキルは、単なるテクニックではない。
「何をみるか（認知）」と「何をするか（技術）」が
セットになって初めて機能する。



初任者のステージ：安定しているが、範囲は狭い

認知（内的）[Cognition/Internal]
教室の事実を「みる」力 (The power to "see")

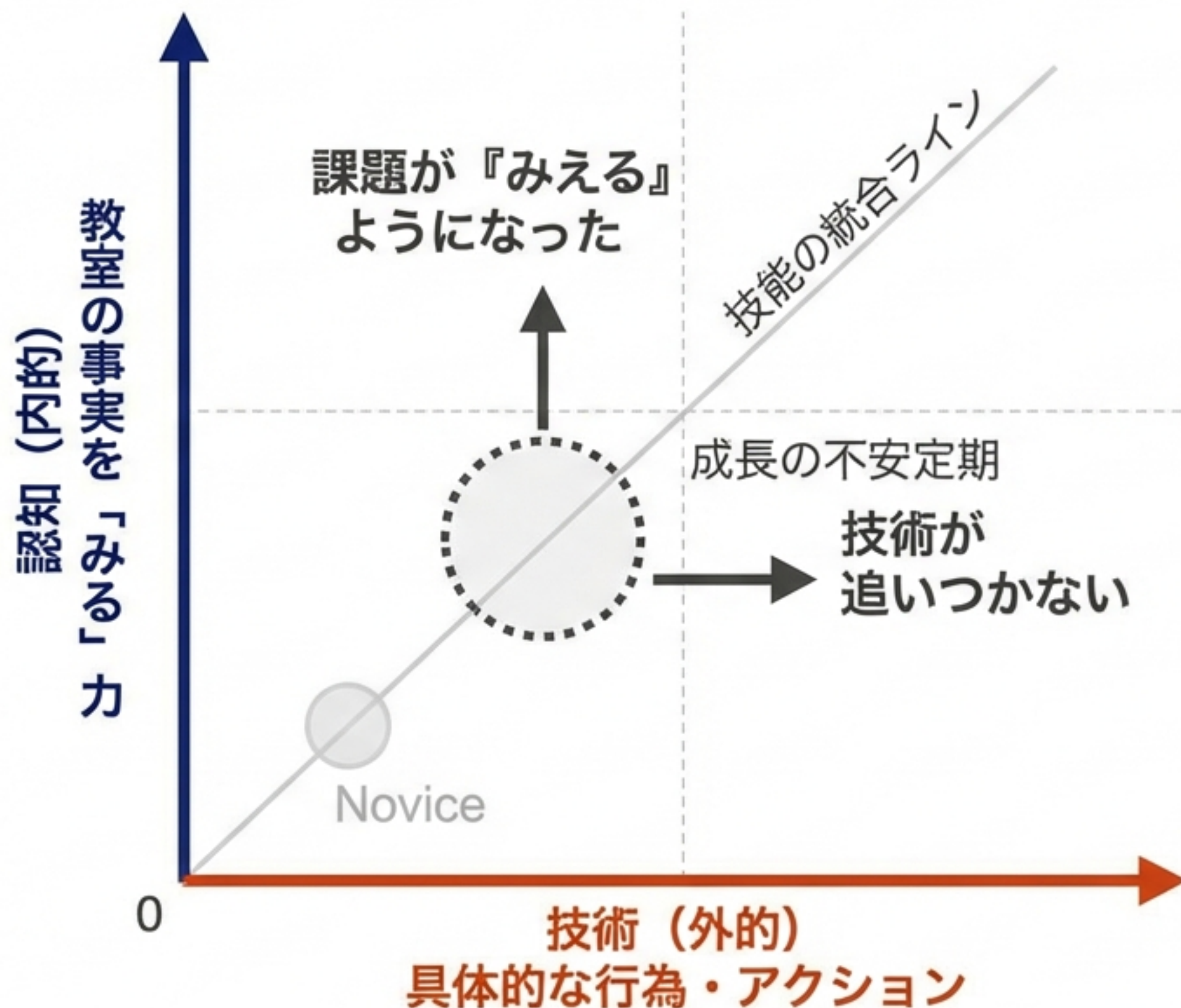


「安定」の状態
自分の「みえる」範囲で、「できる」ことだけをやっているため、本人は安定を感じている。

初任者・実習生 (Novice)
認知も技術も小さい状態でバランスが取れている。

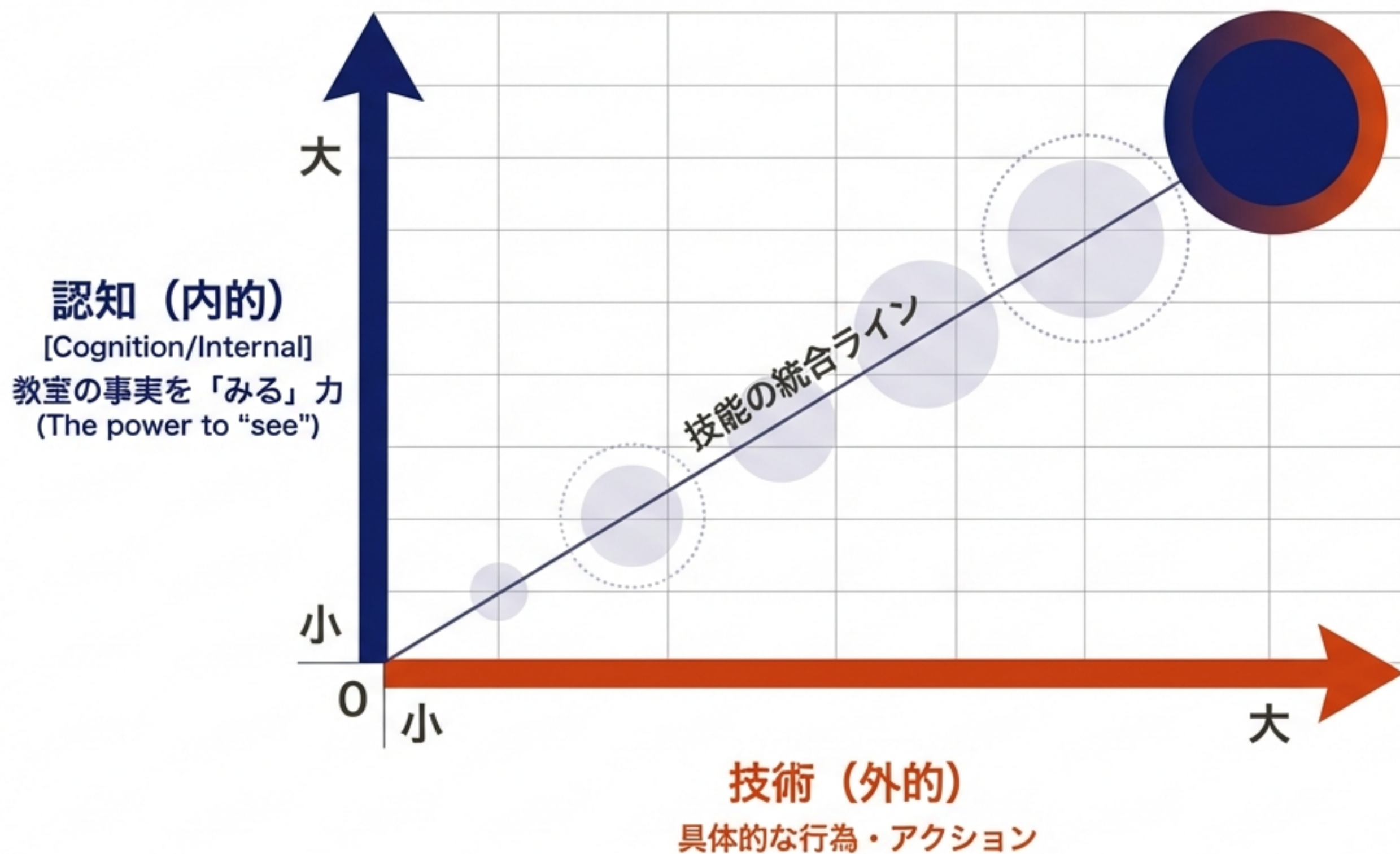
技術（外的）[Technique/External]
具体的な行為・アクション (Specific actions)

成長の契機：「安定」の崩壊と課題の自覚



「手だてが効かない」
「うまくいかない」という
違和感こそが、次の成長への
スタートラインである。

熟達教師のステージ：高度な「みえ」と技術の一体化

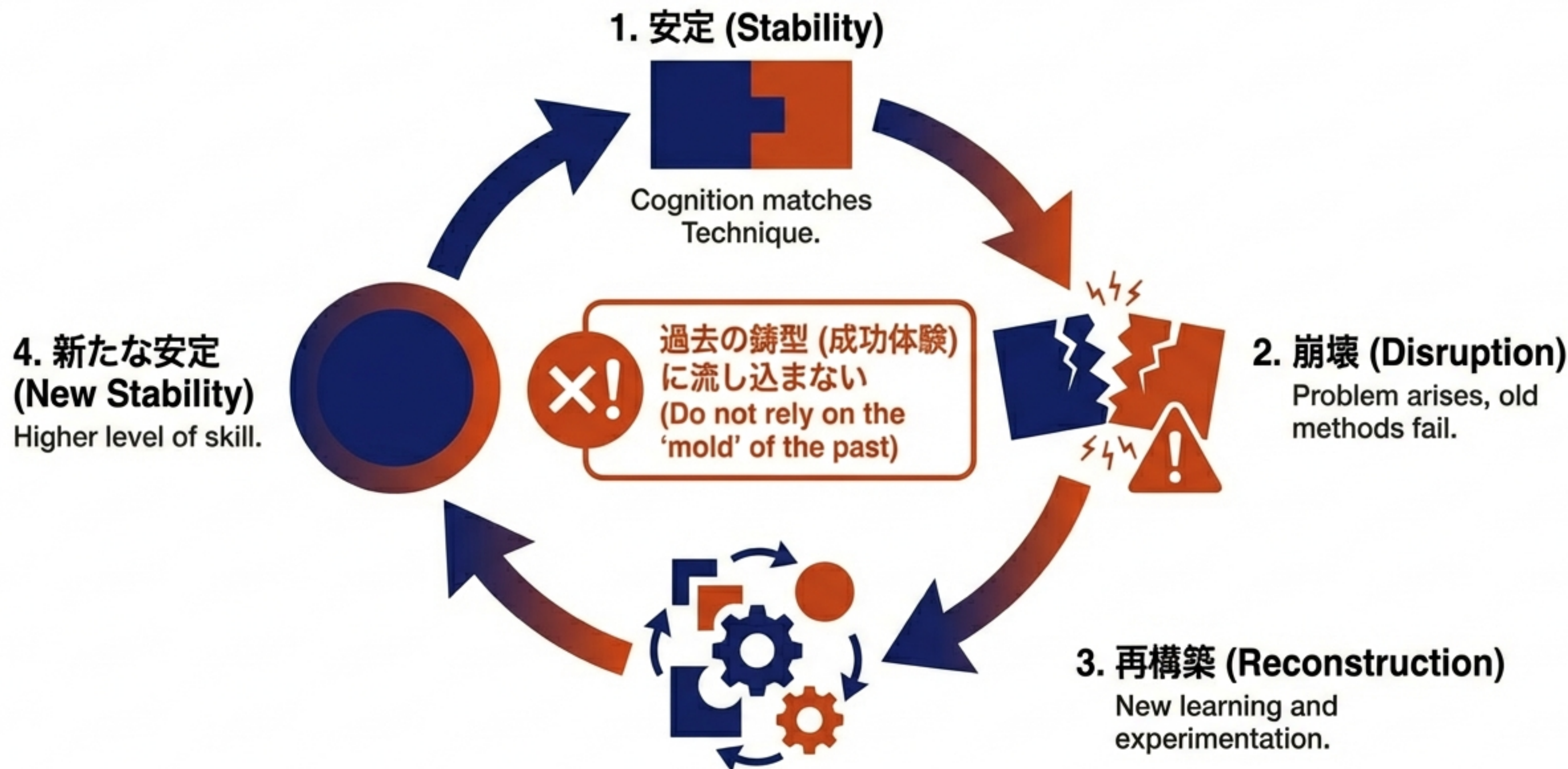


熟達教師 (Master Teacher)

高度な認知と高度な技術が
再統合された状態。

「みえ」と「技術」が瞬時に
連動する。
しかし、これも「一時的な安
定」に過ぎない。さらなる
成長は、この安定をまた壊す
ことから始まる。

成長のスパイラル：過去の成功体験（鋳型）を捨てられるか



すべては「授業の事象がどうみえるか」から始まる



技術の選択は
『みえ』に依存する

『みえ』が変われば、
必要な技術も変わる

みえ (Mieru - The View/Perception)

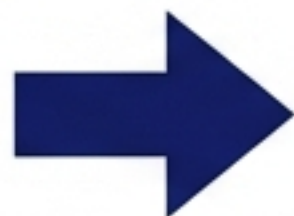
熟達者と初任者の最大の違いは、
技の数ではなく、この『みえ』の解像度である

実践的アプローチ： オン・ゴーイング法とアクションリサーチ



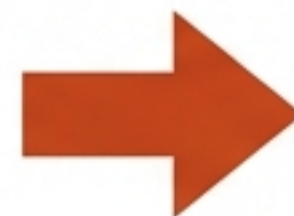
**対象化
(Objectify)**

進行する授業の事実を
客観的に捉える



**自己認識
(Self-Recognize)**

「みえている状態」と
「行った技術」の
ギャップを自覚する



**アクションリサーチ
(Action Research)**

課題を設定し、
克服に向けた行動をとる

研修のデザインは、この認知と技術の対立を意図的に起こす「仕掛け」であるべき。

ワークショップ：自己の教育技術を振り返る



現状の技術 (Current Technique)

今、安定して使えている技術は何か？

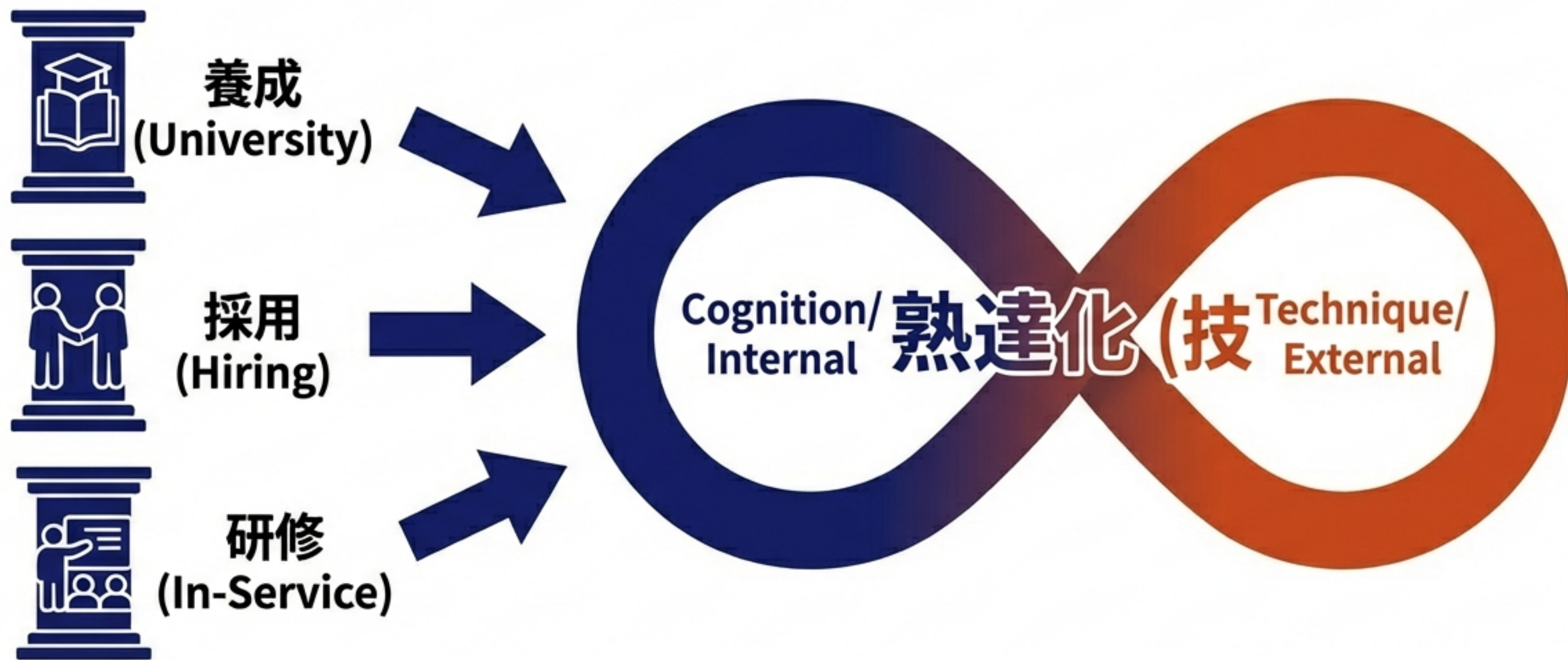
課題と違和感 (Challenges & Instability)

授業中に「うまくいかない」「見えているのに手が打てない」場面はどこか？

アクションプラン (Action Plan)

そのギャップを埋めるために、具体的に何を書き留めるか？

結論：終わりのない「知」と「技」の旅



熟達教師とは、完成された姿ではない。
常に自らの安定を崩し、新たな「みえ」と「技」の統合を目指す勇気ある実践者である